

吉本隆明全著作集

10

吉本隆明全著作集

10

思想論

I

勁草書房

吉本隆明全著作集10

昭和四八年十一月一〇日第一刷発行

著 者 吉本隆明

発行者 井村寿二

発行所 勁草書房

〔東京都文京区後楽二の二三の一五
電話番号東京八一四局六八六一 郵
便番号一一二 振替口座東京一七五
二五三番〕

印刷所 精興社

製本所 青木製本

*定価は外函に表示してあります。

© 1973 by Takaaki Yoshimoto

目

次

はしがき	五
------	---

I 心的世界の叙述

1 心的現象は自体としてあつかいうるか	八
2 心的な内容	一四
3 心的内容主義	二
4 ヘエスゝはなぜ人間的構造となるか	三
5 新しいフロイド批判の立場について	六

Ⅱ 心的世界をどうとらえるか

1	原生的疎外の概念を前景へおしだすために……………	五
2	心的な領域をどう記述するか……………	五
3	異常または病的とはなにか……………	五
4	異常と病的とは区別できるか……………	六
5	心的現象としての精神分裂病……………	六
6	心的現象としての病的なもの……………	六
7	ミンコフスキーの『精神分裂病』について……………	六

Ⅲ 心的世界の動態化

1	前提.....	101
2	原生的疎外と純粹疎外.....	106
3	度 (Grad) について.....	111
4	ふたたび心的現象としての精神分裂病について.....	116
5	感官相互の位相について.....	115
6	聴覚と視覚の特異性.....	115
7	原生的疎外と純粹疎外の関係.....	114

IV 心的現象としての感情

- | | | |
|---|-------------|----|
| 1 | 感情とはなにか | 一四 |
| 2 | 感情の考察についての註 | 一五 |
| 3 | 感情の障害について | 一六 |
| 4 | 好く・中性・好かぬ | 一六 |

V 心的現象としての発語および失語

- | | | |
|---|------------|----|
| 1 | 心的現象としての発語 | 一七 |
|---|------------|----|

VI 心的現象としての夢

1	夢状態とはなにか	二〇
2	心的な失語	二七
3	心的現象としての〈概念〉と〈規範〉	三八
4	概念障害の時間的構造	二九
5	規範障害の空間的構造	二九
6	発語における時間と空間との相互転換	三〇

2	夢における〈受容〉と〈了解〉の変化……………	三五
3	夢の意味……………	三九
4	なぜ夢をみるか……………	三七
5	夢の解釈……………	三九
6	夢を覚えているとはなにか……………	三六
7	夢の時間化度と空間化度の質……………	四四
8	一般夢の問題……………	四八
9	一般夢の解釈……………	五五
10	類型夢の問題……………	六〇

VII 心像論

1	心像とはなにか	二六
2	心像の位置づけ	二四
3	心像における時間と空間	二八
4	引き寄せの構造 I	二六
5	引き寄せの構造 II	二九
6	引き寄せの構造 III	三〇
7	引き寄せの構造 IV	三六

8	引き寄せの世界	三六
	あとがき	三二
	全著作集のためのあとがき	三三
	解題	三五
	索引	

思想論 I

吉本隆明全著作集

10

心的現象論序說

はしがき

〈言語〉の考察をすすめていたあいだ、たえず、言語の表現が、人間の心的な世界のうちどれだけを作動させ、どれだけを作動させないか、もしも、言語の表出において心的世界がすべてならぬかの形で参加するとすれば、はたしてその世界はどんな構造になっているか、というような疑問につきあたってきた。この疑問は、わたしの言語表現についての考察を基底のところまで絶えずおびやかすようにおもわれた。

そこで、〈言語〉の考察が、あとに力仕事だけをのこして完了したあとで、心的現象について基本的なかんがえを展開しようとおもった。

いうまでもなく、この領域は、心理学、精神医学、哲学の領域に属していて、わたしはひとびとがわたしの専門とかがえている文学の固有領域から、すくなくとも具体的には一段と遠ざかることになる。しかし、現在では、一個の文芸批評が独立した領域として振舞おうとするとき、このような文学的常識からの逸脱はまぬかれ難いものである。そしてこの逸脱が、いつの日か文学芸術の固有領域を根源において惹きつけるということを信ずるほかはない。わたしは、じぶんがなにをな